

○議長（茅沼隆文）

皆さんおはようございます。ただいまの出席議員は12名です。定足数に達しておりますので、これより平成30年開成町議会6月定例会議第2日目の会議を開きます。

午前 9時00分 開議

○議長（茅沼隆文）

本日は、日曜議会を開催しております。早速、本日の日程に入ります。

日程第1 一般質問を行います。質問の順序は先に抽せんで決定した順序で行いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、一般質問に入りますが、持ち時間は、お一人30分の時間通告制で行います。なお、持ち時間より早く終了しても、お手元に配付してあります時間割どおりのおとりに行いますので、御承知おきください。質問、答弁は簡潔にお願いいたします。

それでは、10番、星野洋一議員、どうぞ。

○10番（星野洋一）

皆様、おはようございます。10番、星野洋一です。本日は、目の前にこのようにきれいに飾ってあります、あじさい、町民の方が飾ってくださったそうです。このきれいな花を見ながら、質問をさせていただきたいと思います。

それでは、通告に従いまして、1項目、質問いたします。

開成町の自転車利用環境をよりよくするための対策を問う。

自転車事故が社会問題となっている現在、開成町においても信号やルールを守らない危険な走行が多々見受けられ、通学時の児童・生徒の事故等が大変心配されます。平成20年6月1日の道路交通法改正により、幼児及び児童に対するヘルメットの着用努力義務が施行されました。警察庁や製品安全協会などの調べによると、保護者との自転車同乗時や自ら自転車を乗車中に事故や転倒によって、怪我、あるいは死亡した際、そのダメージの6割が頭部と言われているが、まだまだヘルメットの着用率が高いとは言えません。また、開成駅が急行停車駅になることにより、利用者の増加による駐輪場等の環境対策、防犯対策も急がれると思います。

町は第五次開成町総合計画に自転車のまちづくりの推進を掲げております。自転車にかかわる交通事故等を防止するために安全利用ルールの徹底やマナーの向上が必要であると思われます。

そこで次の項目についてお伺いいたします。

①町と自転車関係事業者の連携による安全啓発を図っては。

②幼児及び児童・高齢者へのヘルメットの着用、損害賠償等への自転車保険の促進は。

③駅前周辺駐輪場の環境及び防犯対策は。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、星野議員の御質問にお答えをいたします。

開成町の交通安全対策については、開成町交通安全対策協議会において、町内で発生した交通事故状況等の把握を行い、対策を検討して、悲惨な交通事故から町民を守るための様々な取り組みを行っております。

自転車に関係する事故では、県内の市区町村ごとに、年間の全交通事故件数のうち自転車に関係する交通事故件数の割合が県内平均より3ポイント以上高いか、自転車の関係する事故による死者数が二人以上のいずれかに該当する場合、神奈川県交通安全対策協議会会長である県知事から自転車交通事故多発地域に指定され、自転車事故防止対策の一層の推進が依頼されます。開成町では平成21年度以降に3回自転車交通事故多発地域の指定を受けた経緯があります。

昨年平成29年度の旧年中の開成町内での全交通事故件数は49件と前年と同じ件数で、このうち自転車に関係する事故も10件と昨年と同じ件数で、自転車事故の割合としては20.4%でありました。県平均が22.9%でありましたので、平成30年度開成町は指定を受けておりません。県の指定要件に該当した14市区町が、自転車交通事故多発地域の指定を受けております。

開成町では、近年、この指定を受けておりませんので、今後も引き続き指定を受けることのないよう、自転車による交通事故防止対策を実施してまいります。

では一つ目の町と自転車関係事業者の連携により、安全啓発を図ってみては、についてお答えをいたします。

町における自転車マナー向上等の取り組みとして、小学4年生を対象とした自転車運転免許制度の実施、小学5年生においては、自転車の安全な乗り方大会への出場、大会終了後には、各学校で出場した選手が安全な乗り方を披露することにより学校内での自転車の乗り方について意識の高揚を図っております。

また、昨年度には自転車の安全な乗り方足柄上地区大会で8連覇を成し遂げるとともに、県大会、全国大会への出場を果たすなど、町民への自転車の安全利用に対する意識付けに大いに役立っていると感じているところであります。

また、自転車のマナーアップに関する取り組みとして、毎年5月に実施される自転車マナーアップ強化月間には、警察と交通指導隊の協力のもとに自転車の乗り方街頭指導及び啓発活動を町内の主要交差点で行っており、今年も5月15日に開成駅前西口のロータリー2カ所に分かれて実施をしたところであります。

自転車事業所との連携としては、昨年9月に1市5町と松田警察署、松田自動車学校の共催で、交通安全総ぐるみ推進大会を実施をした際に、自転車ドライブシミュレーターのブースの出展がありました。開成駅前駐輪場指定管理者もブースの運営に携わった経緯があります。

御質問にある自転車販売店、自転車駐輪場事業者と連携した安全啓発については、

自転車マナーアップに向けたチラシの配布などについて事業者に協力をいただき、啓発活動を進めていきたいと考えております。

次に、二つ目の幼児及び児童・高齢者へのヘルメット着用、損害賠償等への自転車保険の促進は、についてお答えをいたします。

自転車乗車時の幼児や高齢者のヘルメット着用については、平成20年6月の道路交通法の一部改正により、児童又は幼児を保護する責任ある者は、児童又は幼児を自転車に乗車させるときは、当該児童又は幼児に乗用車用ヘルメットをかぶせるよう努めなければならないとされており、高齢者のヘルメット着用についても努力義務となっております。警察では講習会開催などの機会を捉えて、啓発活動を進めております。

自転車保険については子どもでも加害者となり得る問題として近年報道がなされており、死亡事故等において多額の賠償が求められるケースがあります。

高校では自転車通学するケースも多いことから、通学すると学校から自転車保険へ加入を促されている状況があります。

町立学校の状況としては、小学校では県PTA協議会によるプラン加入を保護者に対して案内をし、中学校では部活の遠征等で自転車を利用することもあることから今年度から全国交通安全協会の自転車保険をいざという時のために備えるよう保護者会の案内をしています。

自転車保険は、自動車保険に附随したプラン、クレジットカードに付加されたプランなど様々な種類や形態があります。

自転車乗車用ヘルメットの着用とあわせて自転車保険の加入についても町民の安全・安心を確保していく観点から機会を捉えて啓発活動に努めております。

次に、三つ目の駅前周辺駐輪場の環境及び防犯対策は、についてお答えをいたします。

開成駅周辺の駐輪場としては、町が指定管理者と管理業務について協定を締結している開成町自転車等駐車場と小田急電鉄株式会社が運営する駐輪場の二つがあります。

開成町自転車等駐車場の利用状況としては、現在空きがある状態ではありますが、今後は急行が停車することで駅を利用する乗降客数が増え、あわせて自転車利用者の増加も見込まれることから関係機関との意見交換等の中で自転車駐輪場の確保についても検討していきたいと考えております。

次に、駐輪場における防犯対策としては、開成町自転車等駐車場では指定管理者が防犯カメラを設置するとともに、管理人による見回り防犯看板の設置による啓発を行っております。

開成駅周辺の防犯対策においては、平成15年度から15年間にわたり開成駅前連絡所ボランティア安全サポーターの方々に防犯活動や見守り活動を担っていただいております。大変ありがたく感謝してるところであります。

今後、急行が停車することにより、駅利用者が増大することが予想されます。自転

車駐輪場を含めた会社駅周辺の安全・安心を高めるために、開成駅前交番の設置に向けた要望活動を進めるとともに、防犯意識の高揚が図れるよう、啓発活動を進めてまいります。

以上であります。よろしく申し上げます。

○議長（茅沼隆文）

星野議員。

○10番（星野洋一）

丁寧な御答弁、ありがとうございました。それでは私から再質問させていただきます。

私は朝の登校指導等で自転車の走行等をよく見る機会がたくさんあるのですが、朝の通勤、通学、その他で急いでいる方がかなり信号無視したり、安全ルール無視等して、大変危険な運転をしばしば見受けられます。それを見るたびに、事故が起きないかな、大丈夫かなと大変心配になっております。

現状では第五次開成町総合計画、前期の基本計画において、内容、順位でもマナー向上は優先度が最下位になっております。答弁の中にあつたように、町における自転車のマナー向上は、小学生には一生懸命いろいろなことをやっていただいておりますが、大学生、高校生、成人及び高齢者に対する自転車の交通安全教育は明らかにこれ不足している状態ではないのかなと心配しております。

6月18日に神奈川新聞の投稿欄に、「自転車マナーの意識を高めて」という高校生の投稿がございました。その高校生は自分を含めてもっとマナーを守らなくてはいけないという内容で、そのときは何事もなかったのですが、もしかしたら人の命を奪っていたかもしれないと結ばれておりました。誰でも事故が起こるのではないかという、そういう状態にある中、交通ルールを守っていかなくてはいけない。これは大変重要なことと考えております。もっとこの優先度を上げて、町でも努力していただきたいと思っております。

町長にお伺いしたいと思いますが、町長は朝の登校指導、その他自転車で移動する機会が大変多いと思います。その中で町を自転車で回っている中、開成町の今の自転車の状況を見て、今現在これでいいのかなどうなのかなどのように考えておられるのか、その辺を少しお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

私も普段、自転車で回っておりますけれども、特に1日、15日は、開成町の多くの皆さんが、子どもたちが安全に通える登校指導という形で、様々なところに立って、声掛けや、見守りをさせていただいております。

そういった中で、開成町、先程答弁の中で話しましたがけれども、子どものころから、安全のやり方というのは、すごく位置付けが大切ということで、小学生のころから重

点的にやりやっております。そういった中で、一般の人たち、高校生から大人、その人たちの対策が今、不十分だと御意見をいただきましたけれども、ここには載せておりませんが、普段から交通指導隊の皆さんの力を借りて、街頭でのいろいろ、様々なキャンペーン、安全意識を高めるためのこともやっておりますし、高齢者については、松田自動車学校がお借りできるときには、チリリンスクールという形で高齢者の皆さんに安全に乗っていただけるように、そのような啓発活動はやってはおりますけれども、それで十分かといえば、なかなかそういうものが、交通違反を含めてやって自転車が危ない乗り方をしているのも目にしますので、できるだけそれをもっと広めて、一般の人たちにも、そのような啓発活動これからもしていく必要があるという認識を持っております。

○議長（茅沼隆文）

星野議員。

○10番（星野洋一）

やはり危険であるという認識を持たれているということで、これからも、そのことに関して、もっとやっていただきたいと思います。確かに小学生の方に対しては、非常に丁寧に、いろいろなキャンペーンではなくて、マナーの向上のために、いろいろな努力していただいているのは大変良いと思っております。ただ、先程も言ったように、成人の方、その他、なかなかそういうチャンスに恵まれない方は、マナー向上に対してまだまだ認識が甘いと自分では考えておりますので、その辺をもう少し頑張ってもらいたいなと自分では考えております。

1番の中でも、自転車の教室、安全マナーの啓発などに馴染みの少ない成人、大学生に訴えかけるのは、今後自転車販売店、自転車駐輪場、事業者と連携して啓発しなくてはならないと自分は考えておりますので、特に自転車販売店においては、自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律というものがございまして、自動車販売店に自転車の安全利用のために十分な情報を提供することの努力義務が課されているということを踏まえると、より強く自転車販売店等に求めていくことが適当ではないかと私は考えます。

御答弁の中にも、自転車販売店、自転車駐輪場と連携して啓発活動するとありましたが、そのところをもう少し詳しくお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町民サービス部長。

○町民サービス部長（鳥海仁史）

町長答弁の中でも、今後、自転車販売店等と連携して啓発活動していきたいというお答えをさせていただいているわけですが、この中では啓発活動ということで一般の方等を含めまして、自転車を購入された方だけではなくて、広く一般の方も含めて連携して啓発活動していくというような意味で、答弁をさせていただいております。この中では、チラシの配布ですとか、そういうキャンペーン活動、そういうも

のが主になってくるかなと考えてございます。

ただ、今議員御指摘のように販売店の義務といたしまして、交通安全に係る指導と言いますか、教育啓発、そういうものが義務付けられているということの中では、その辺の教育活動、町も一緒に推進していくというような立場の中から、販売店、最近では結構少なくなってきましたけれども、そういう販売店に啓発努力を促していきたいと。その辺の方法等につきましては、販売店ともよく協議した中で、どういう方法が一番良いかという御提案なんかもいただきながら、対応していきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

星野議員。

○10番（星野洋一）

そうですね。やはり自転車販売等店等と協力して、いろいろなことを進めていくのが、私はよろしいかと思います。

今おっしゃったように、確かに町の中の販売店は、かなり少なくなつてはしまいましたが、これからは大きな販売店、大型スーパーとか、近頃、量販店とか、そういうところでも自転車は販売しておりますので、少し広域になるかと思いますが、そういうところと協力しながら自転車の整備も含めて、いろいろなところで協議していただきたいと思っております。

例えば、今、自転車で走っていると、後ろも見ないでいきなり目の前の道路を渡る自転車が、時々見受けられるのです。要するにバックミラー等をつけていないから後ろが見えない。それで確認しないでそのまま渡ってしまうようなことが、何回か私を見受けられております。ちょっとヒヤッとしたこともございます。そういうことも考えますと、販売店と協力して、そういう自転車に対する整備の感覚も持ちながら、両方が販売と啓発運動を兼ねたものを両方で協力していくようにやっていかなくてはいけないのではないかと、私はそのように考えております。今言ったように、ちょっと広域になるかと思いますが、他町も含めて、そのような感じで広げていったらどうなのではないかなと自分は考えておりますのでそれはいかがに思いますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、広域でという話が出ましたので、仕組み的に、上郡町村会、県の町村会というものがありますので、そういう中でまた話題に少し出させていただいて、広域の中で考えていくというのも大事だと思っております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

星野議員。

○10番（星野洋一）

そうですね。上郡の町村会、その他で、やはり広域で検討していただいて、より良いものをつくっていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、二つ目の幼児及び児童、高齢者のヘルメットの着用、損害賠償等への自転車保険の促進について、質問したいと思います。

お子さんを乗せて走っている自転車をよく見かけることがございますが、しかし、ヘルメットの着用率が低く、あのまま倒れたら、かなり大変なことになるのではないかなと私心配しております。お子さんの身長からしたら、自分の二、三倍の高さから落ちるわけですから、かなりの衝撃度をもって、下に落ちて、大きな怪我をしてしまうのではないかなと自分は見えていますので、その辺のところを、安全とか、そういうのを考えながら質問をしたいと思います。

実際、警察署や製品の安全協会などの調べによりますと、保護者と自転車の同乗時においては、怪我とか、事故、死亡した際に、そのダメージの6割が頭部だと、言われております。また転倒したとか、転倒しそうになった経験についてアンケートをしたところ、7割の回答者が、子どもを乗せたのときに転倒した。または転倒しそうになった経験があり、押し歩きなど、走行中以外にも危険があったと述べております。

そこで「自転車のまち」を目指す開成町においては、子ども、または高齢者に安全を目指す取り組みとして、ヘルメットの購入費用の助成を行うということを私は提案したいと思います。

ヘルメットの費用といたしましては、大体3,000円前後だと思いますので、個数制限とか設ける必要があると思いますが、1,000円から2,000円ぐらいの助成をし、安全を率先して行っている町である。自転車のために頑張っている町であるということをアピールしながら、また、助成時に安全マナーの啓発を一緒に行えばより効果が大きいと考えますので、ヘルメットに対する助成制度これはいかがでしょうかということでお伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

具体的に助成制度という話がありましたが、ある意味、自分の身は自分で守るという意識、防災もそうですけれども、すごく大事なことだと思います。そこに対して、その位置付けをまず町としてやっていくというのがすごく大事なことで、一つ一つ補助制度をやっていくことがどうかということを考えると、今の時点では、ヘルメットに対して助成をということは、今は考えておりません。

○議長（茅沼隆文）

星野議員。

○10番（星野洋一）

まだまだ考えられないという、今、お答えをお受けましたが、非常に残念であると

考えております。ヘルメットに対しては、かなりショックを和らげるとか、いろいろ効果がありますので、近隣においても、厚木市とか、平塚市とか、いろいろなところでそういうことを、だんだん助成制度を行ってるところは自治体が増えております。開成町もそういうところで真っ先に率先して、自分の町は子どもたちを守るための町だとアピールしていただければ、そのようにして役立つのではないのかなと思って、私はそれを提案いたしました。これから徐々にそのような雰囲気になっていってほしいなということで思って、これからもその方面に対して努力していきたいと思っております。

あと保険に関しましては、川崎市では去年12月7日ですか。歩行者と電動自転車でしたか、ぶつかり、その後、歩行者が死亡してしまったという事件がありまして、多分皆様も記憶に残ってる方も多いと思います。また、子どもたちも加害者になり得る問題であり、死亡事故等において多大な保障が求められるケースもありますので、これからもより一層努力して、自動車販売店、その他学校関係者と協力して、保険の啓発をお願いしたいと考えております。

それでは最後に、駅前周辺駐輪場の環境及び防犯対策は、についてお伺いいたします。

町の自転車の盗難は大変多く、平成28年に41台、平成29年には29台の自転車が盗難に遭っております。南足柄市よりも多いという大変多いという悪い現状がありますので、その辺に対しては防犯対策が非常に必要ではないかと思っております。

駅前交番の設置は、防犯対策にとって大変重要であると考えておりますが、現在の要望活動の進捗状況はいかがなものか、お教えてください。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（橋本健一郎）

ではお答えしたいと思います。開成駅前につきましては、平成8年度に、駅前交番連絡所設置いたしまして、その後、平成10年から毎年交番の設置要望については、県へ要望しているところでございます。

先日のところでもございましたけれども、県の交番の設置の順位としては、県内では大分低いというような状況を聞いておりますので、そういったものを、急行が停車するということもございますので、要望していく内容を考えていながら、できるだけ早めに交番の設置に向けた取り組みを進めていきたいと考えておるところでございます。

○議長（茅沼隆文）

星野議員。

○10番（星野洋一）

多分小田急線の中で、急行が止まって交番がないところは多分今までないと自分では考えております。これからも積極的にその辺を押していただいて、早く開成町にも交番をつくっていただけるよう、努力していきたいと思っております。よろしく願いいた



します。

それでは、そのほか、自転車の盗難対策として、防犯カメラの効果は非常に大きいと考えておりますが、現時点では、指定管理者等が防犯カメラを備えているのは何台ぐらい備えているか、その辺を少しお教えてください。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（橋本健一郎）

お答えしたいと思います。開成町の駐輪場については、指定管理者が管理等を行っておりまして、指定管理者が防犯カメラを設置している台数は、事務所のところに1台設置をしているという状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

星野議員。

○10番（星野洋一）

自転車の事務所に1台、多分それではなかなか事務所では、大きなところまで、見ることができないので、それももうちょっと頑張っていて、防犯カメラ等も台数を増やしていただいて、防犯対策について、もっと一生懸命やっていただけたらと思います。

南足柄市のほうでは、ロックの日というのを設けて、6月9日にキャンペーンをして、啓発の活動をしております。開成町も開成駅前連絡のボランティア、安全サポーター等の方々がいらっしゃいますので、そういう方々と協力して、ロックの日のような啓発活動をこれからも開成町で行っていただいて、より一層安全な駅前環境、駐輪場の環境をつくっていただきたいと思います。これから急行が止まって町の様子が変わっていきます。より安全で心配のない町を目指して、これからも頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。

以上をもって、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

これで星野洋一議員の一般質問を終了といたします。